

平成29年(2017年)3月期 第2四半期 決算説明会

2016年11月24日

JASDAQ:3423

 株式会社 **エスイー**

目 次

- I. 平成29年3月期 第2四半期業績
および平成29年3月期業績予想
- II. 平成29年3月期 第2四半期
エスイーグループ主要事業報告
- III. エスイーグループの今後の戦略

I. 平成29年3月期 第2四半期業績
および平成29年3月期業績予想

損益計算書(連結)

(単位: 百万円)

—	平成28年3月期 第2四半期累計実績	平成29年3月期 第2四半期累計実績	前年同四半期比	
売上高	8,626	7,574	△1,051	△12.2%
営業利益	△144	△150	△6	—
経常利益	△142	△141	1	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△152	△188	△35	—

今年度より利益重視の経営方針に転換し、取扱関連商品の販売を一部縮減

- ・法面を中心とした工場製品の利益率が改善
- ・土木分野では昨年並みの利益を上げたものの、建築分野で全体的に工事発注が遅延
- ・オリンピックなど下期の建設需要は旺盛なため、後半の取り戻しに期待
- ・(株)丸互の「鉄骨事業」を事業承継したエスイー鉄建(株)は売上に寄与

セグメント別業績

(単位: 百万円)

	平成28年3月期 第2四半期累計実績		平成29年3月期 第2四半期累計実績		前年同四半期比	
	売上高	構成比	売上高	構成比		
	営業利益	利益率	営業利益	利益率		
建設用資機材の製造・販売	4,451	51.6%	3,308	43.7%	△1,143	△25.7%
	△228	—	△183	—	45	—
建築用資材の製造・販売	3,542	41.1%	3,576	47.2%	33	1.0%
	310	8.8%	182	5.1%	△127	△41.1%
建設コンサルタント	100	1.2%	182	2.4%	82	82.0%
	△98	—	△21	—	76	—
補修・補強工事	531	6.2%	507	6.7%	△24	△4.6%
	14	2.7%	△14	—	△29	—
合 計	8,626	100%	7,574	100%	△1,051	△12.2%
	△144	—	△150	—	△6	—

■各事業の売上高はセグメント間の内部取引を除き、また営業利益の合計では内部取引および全社費用、のれんの償却額を控除した上、端数調整した数字を記載しております。

平成29年3月期 業績予想(連結)

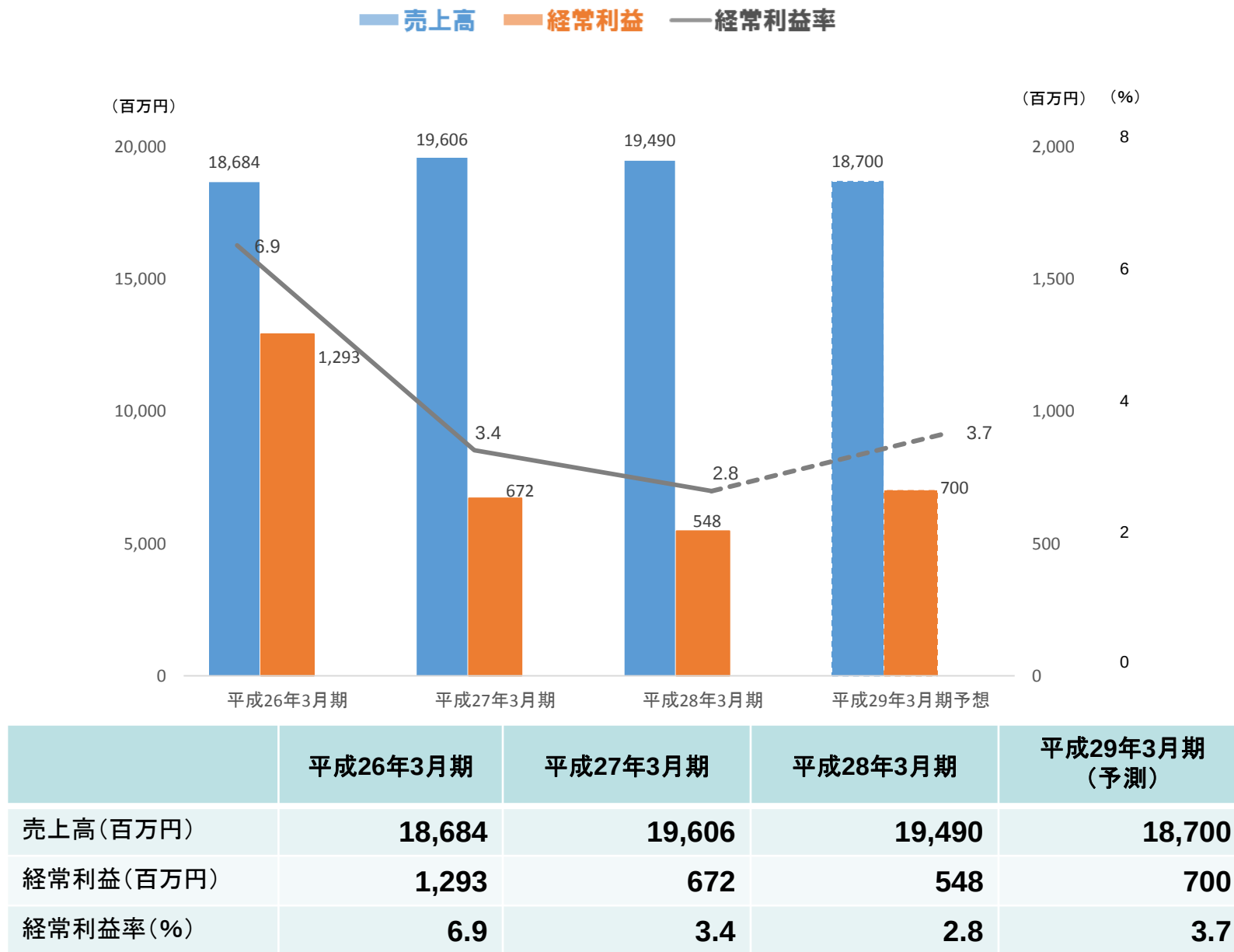
(単位: 百万円)

	平成28年3月期 実績	平成29年3月期 予測	前期比	
売上高	19,490	18,700	△790	△4.1%
営業利益	512	689	176	34.4%
経常利益	548	700	151	27.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	358	340	△18	△5.1%

● 平成29年3月期 期末配当金 1株当たり 20 円 (予定)

本年5月13日に発表した
「平成29年3月期連結業績予想」および
「平成29年3月期期末配当金」に変更ありません

売上高・経常利益推移

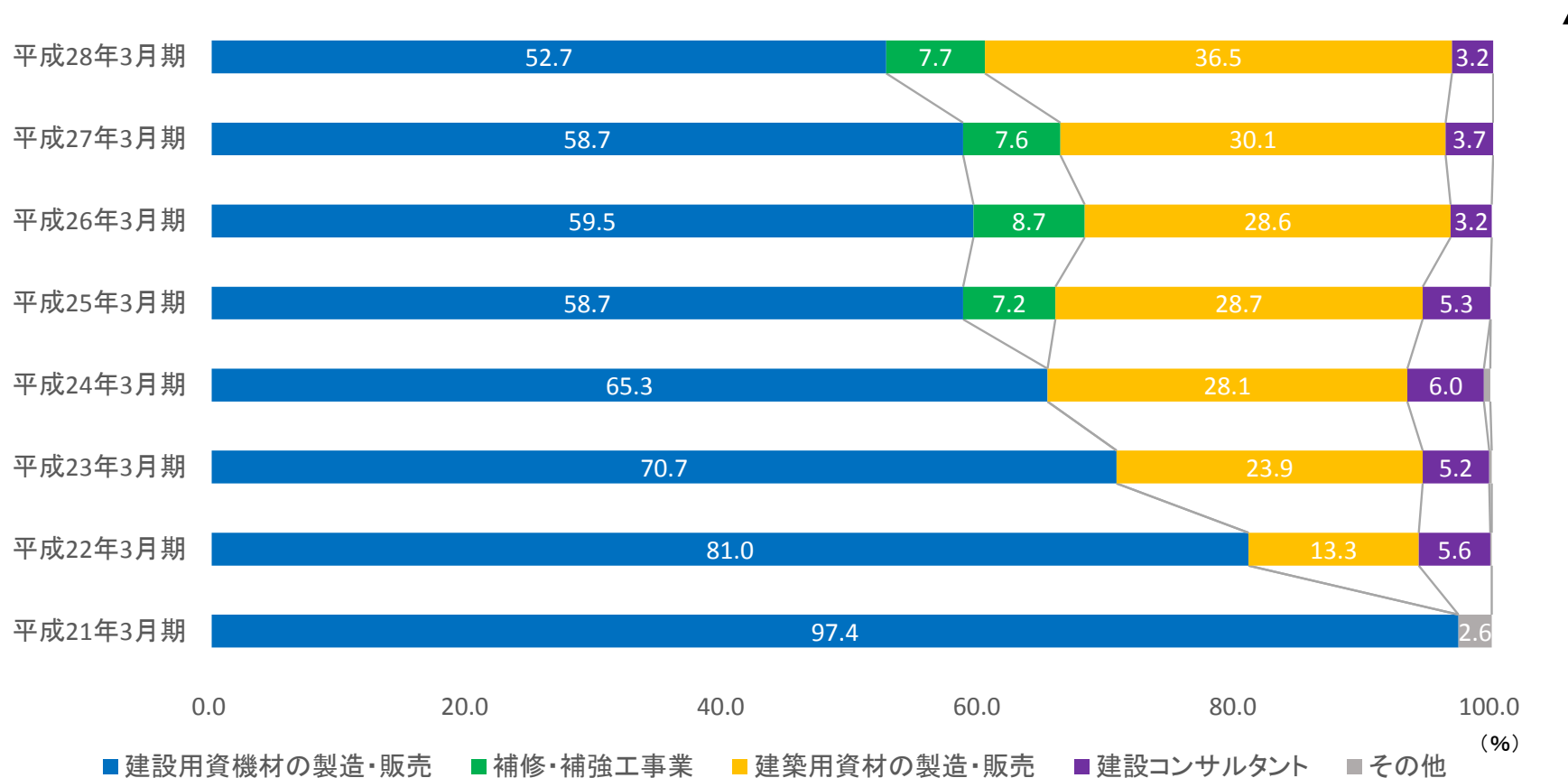




II. 平成29年3月期 第2四半期 エスイーグループ主要事業報告

●M&Aによるセグメント別売上構成比の推移

公共事業費の増減に業績が左右される建設用資機材の製造・販売から、民間需要に依存する建築用資材の製造・販売へ事業モデルをシフト



エスイーグループ事業セグメント別売上構成

補修・補強工事業
5億7百万円
構成比 6.7%



**建設用資機材の
製造・販売**
33億8百万円
構成比 43.7%



建設コンサルタント
1億82百万円
構成比 2.4%



**グループ
合計
75億74百万円**

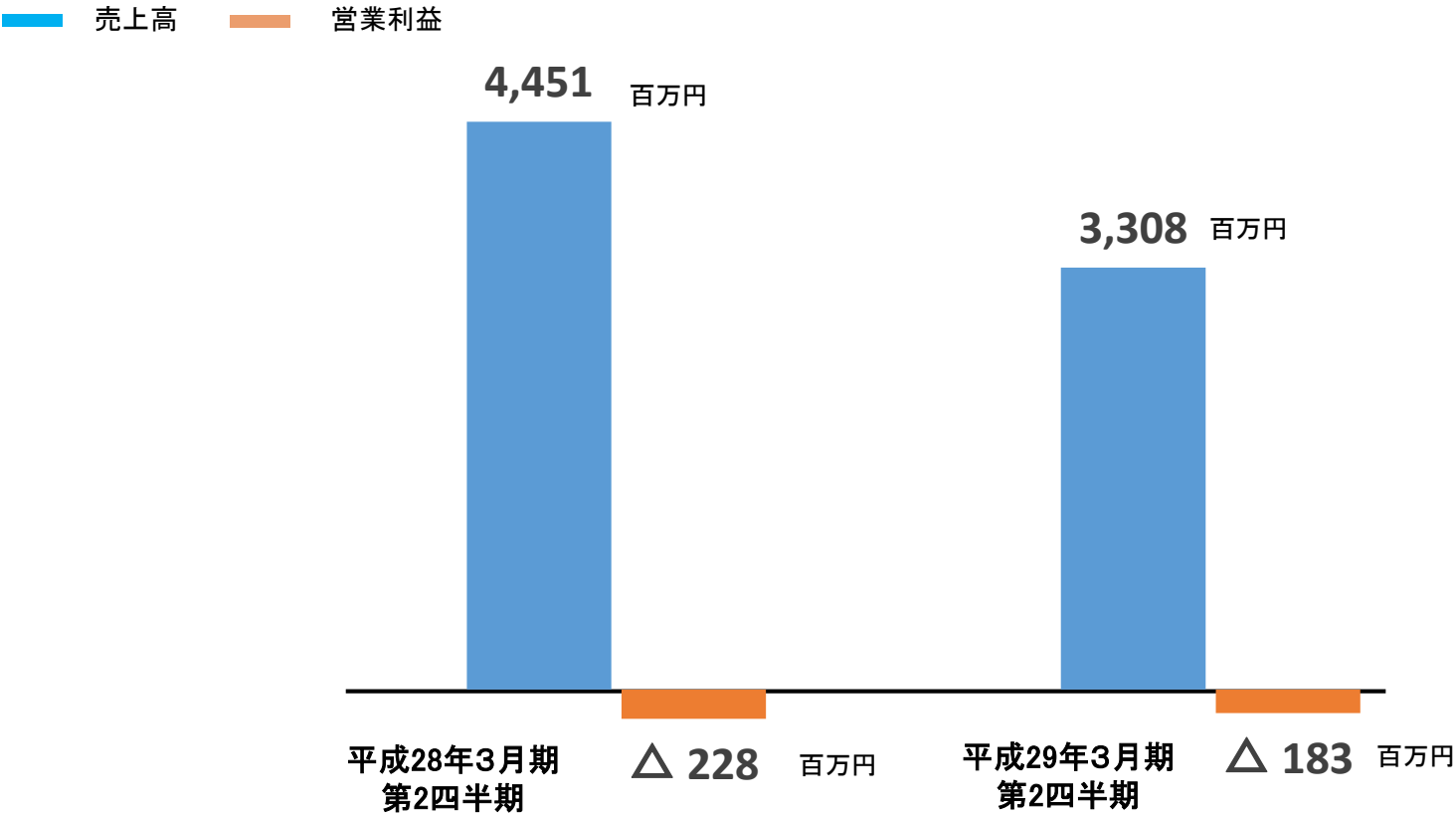
平成29年3月期
第2四半期累計実績

**建築用資材の
製造・販売**
35億76百万円
構成比 47.2%



建設用資機材の製造・販売事業

((株)エスイー、エスイー鉄建(株)、(株)中川鉄工所)



	平成28年3月期 第2四半期	平成29年3月期 第2四半期	前年同四半期比	
売上高(百万円)	4,451	3,308	△1,143	△25.7%
営業利益(百万円)	△228	△183	45	—
営業利益率(%)	—	—	—	—

建設用資機材の製造・販売事業

(株)エスイー、エスイー鉄建(株)、(株)中川鉄工所)

SEC 株式会社 エスイー

建設技能労働者不足による労務単価の上昇や工事遅延の影響により依然厳しい市場環境。2016年度第二次補正予算に係る政府建設投資の一部が今年度に出来高として実現することが想定され、下期は好転する模様

- ・低利益率商品の取り扱い見直しにより、売上高は減少したものの、利益率は改善傾向
- ・用途拡大と応用分野の拡販：漁港機能強化、NEXCO大規模更新
- ・関連製品の販売強化：法枠内KIT、低価格KITの新規販売開始

環境防災分野

- ◆アンカー
- ◆KIT受圧板



■アンカーによる港湾の岸壁補強

- ◆落橋防止装置
- ◆控索 等



■橋桁の落下を防ぐ落橋防止装置

橋梁構造分野

- ◆斜材
- ◆外ケーブル



■PC用ケーブル(FUT)および落橋防止装置を採用

- ◆PC用ケーブル
- 等



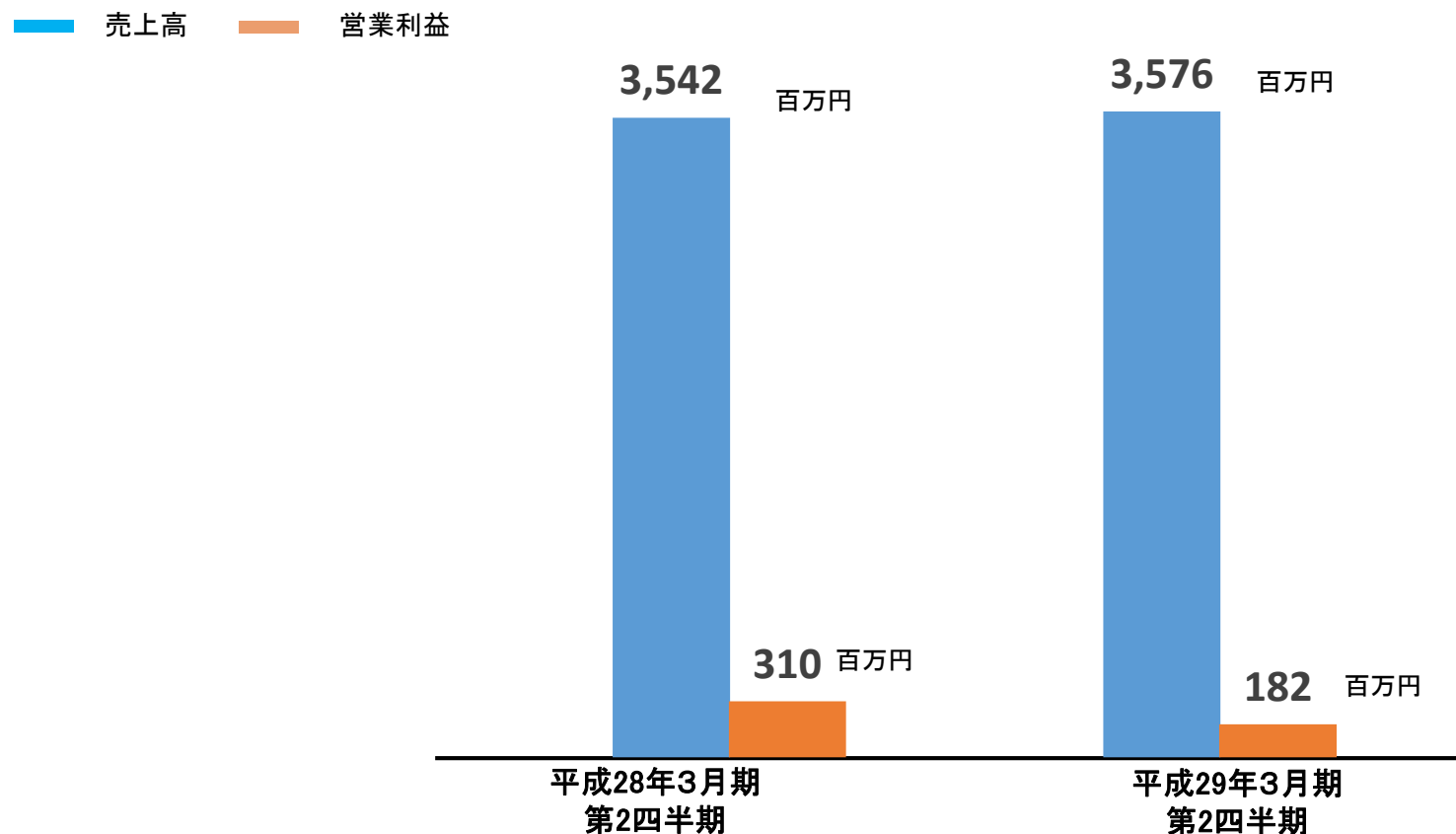
■首都高の補修・補強
(外ケーブル、SEリミッター、落橋防止装置)

建築用資材の製造・販売事業

(エスイーA&K(株)、エスイー鉄建(株)、(株)中川鉄工所)



株式会社 エスイー



	平成28年3月期 第2四半期	平成29年3月期 第2四半期	前年同四半期比	
売上高(百万円)	3,542	3,576	33	1.0%
営業利益(百万円)	310	182	△127	△41.1%
営業利益率(%)	8.8	5.1	△3.6	—

建築用資材の製造・販売事業

(エスイーA&K(株)、エスイー鉄建(株)、(株)中川鉄工所)

SEC 株式会社 エスイー

M&Aにより丸互事業所が加わったものの、建築業界全体の発注が停滞しているため、厳しい市場環境

- ・東北市場では、震災復興関連の建築工事は一段落
- ・首都圏市場でも、民間建築工事の執行が遅延
- ・M&A時の初期費用や固定費の増加のため、利益面では、前年度比減益
- ・また、工事発注の遅れから、売上が減少し、工場稼働率が低下したことも減益の要因
- ・遅れていたオリンピック関連の工事が発注されるため、下期は好転

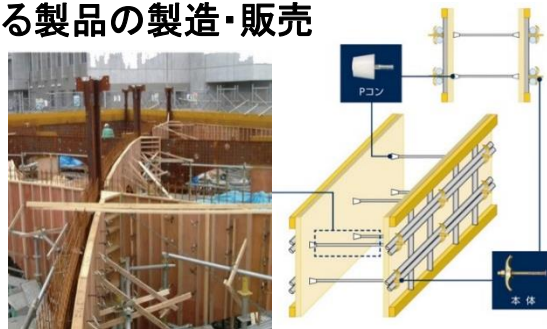
鉄骨工事業

鉄骨製作工事および建築耐震金物の製作



仮設建材事業

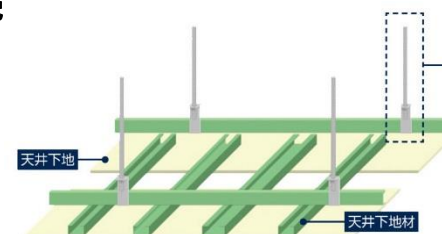
コンクリートを流し込むための型枠(建物の土台部分)を仮設する際に使用する製品の製造・販売



＜マンション、住宅など建設時の土台部分＞

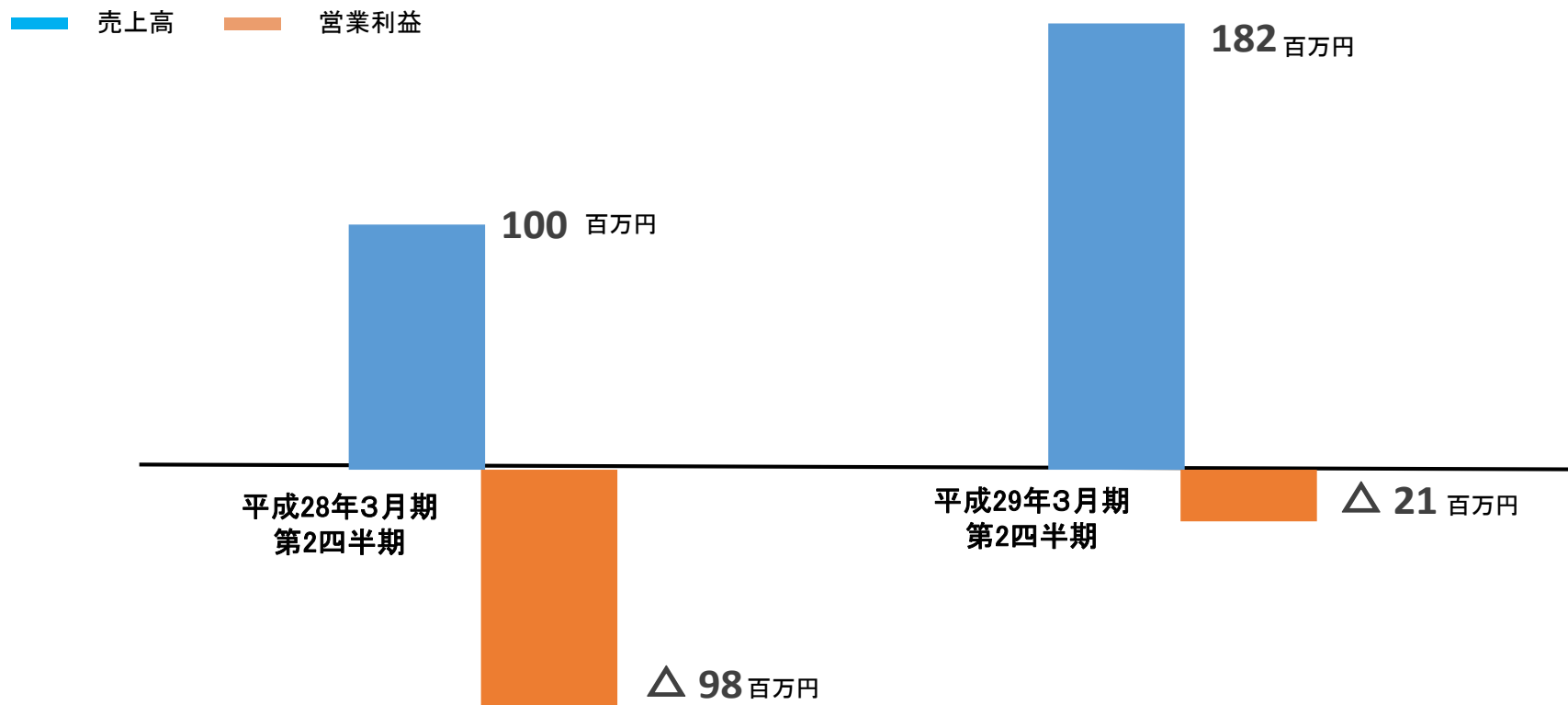
内装建材事業

コンクリートのビル等に使用される、軽量の天井下地を吊り下げるための吊りボルト・セットボルトやその他建材の製造・販売



＜オフィス、商業ビルなどの軽天用吊材＞

建設コンサルタント事業 (株)アンジェロセック



	平成28年3月期 第2四半期	平成29年3月期 第2四半期	前年同四半期比	
売上高(百万円)	100	182	82	82.0%
営業利益(百万円)	△98	△21	76	—
営業利益率(%)	—	—	—	—
【参考】受注残(百万円)	781	1,610		

前年度の案件受注残が、売上・利益の改善に貢献

- ・前年度に引き続き、今年度も受注高10億円超が確実
- ・下期も受注残を中心とした消化活動に専念し、売上が伸長
- ・環境分野(PPP事業)での新たな取り組み
- ・仏アンジェロップ社、ベトナムVJECとの協力により世界銀行、アジア開発銀行案件の受注を図っていく

パキスタン国インダス・ハイウェイ建設事業にかかる事業実施促進業務

現地ミーティング



現地施工指導



ブータン国道1号線橋梁架け替え計画準備調査



チュゾムサ橋完成イメージ

橋梁形式:PC単純箱桁橋
橋長:47.5m

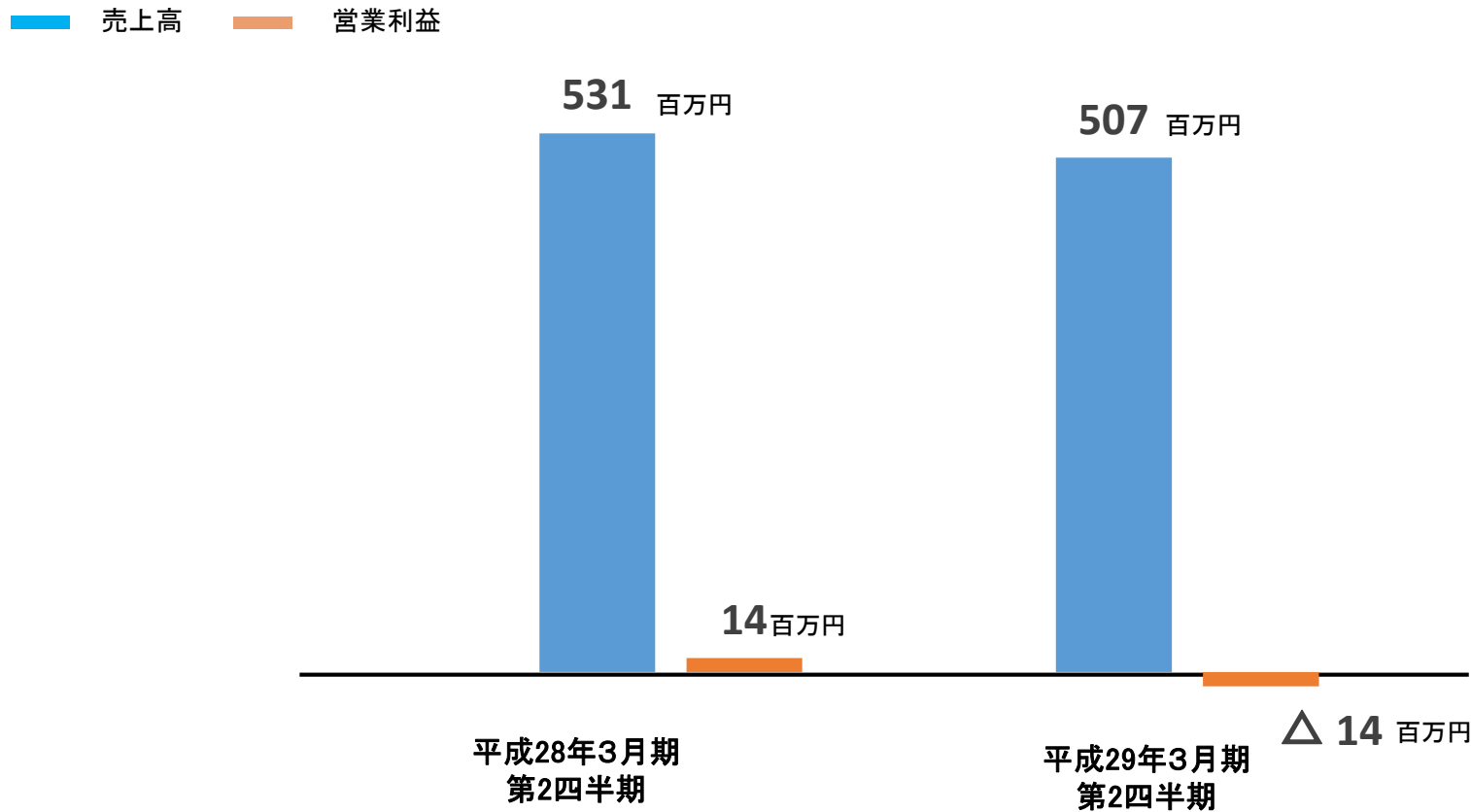
ニカチュ橋完成イメージ

橋梁形式:PC単純箱桁橋
橋長:45.0m



補修・補強工事業

(エスイーリペア(株)、(株)ランドプラン)



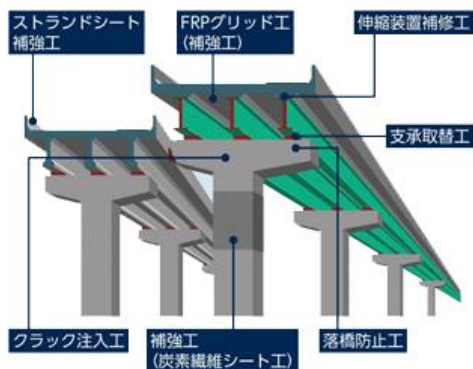
	平成28年3月期 第2四半期	平成29年3月期 第2四半期	前年同四半期比	
売上高(百万円)	531	507	△24	△4.6%
営業利益(百万円)	14	△14	△29	—
営業利益率(%)	2.7	—	—	—

インフラ長寿命化対策事業(橋梁、道路、トンネル等)の受注を推進中

- ・自治体の抱える橋梁70万橋、トンネル1万箇所との5年ごとの点検が前年度から本格化し、補修・補強工事の活性化
- ・公共工事発注遅れ、熊本地震の影響で、業務発注が大幅遅延
- ・調査・点検業務、補修設計と工事の受注による営業機会の拡大

橋梁補修・補強

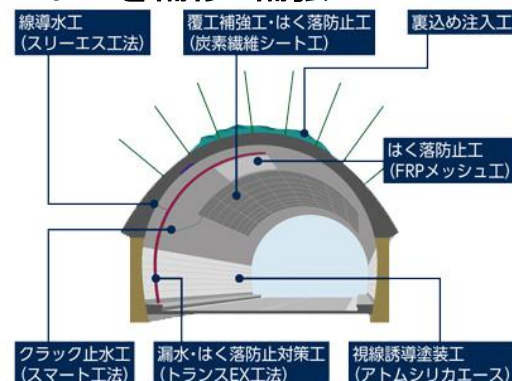
補修・補強工事における長年の実績とノウハウから、様々な工法で橋梁を補修・補強



横変位拘束構造・水平力分担構造 (SEリミッター)と落橋防止装置 (FD型)による耐震補強工

トンネル補修・補強

NETIS登録された工法等から、様々な工法を用いて老朽化したトンネルを補修・補強





III. エスイーグループの今後の戦略

建設・建築業界をとりまく市場環境

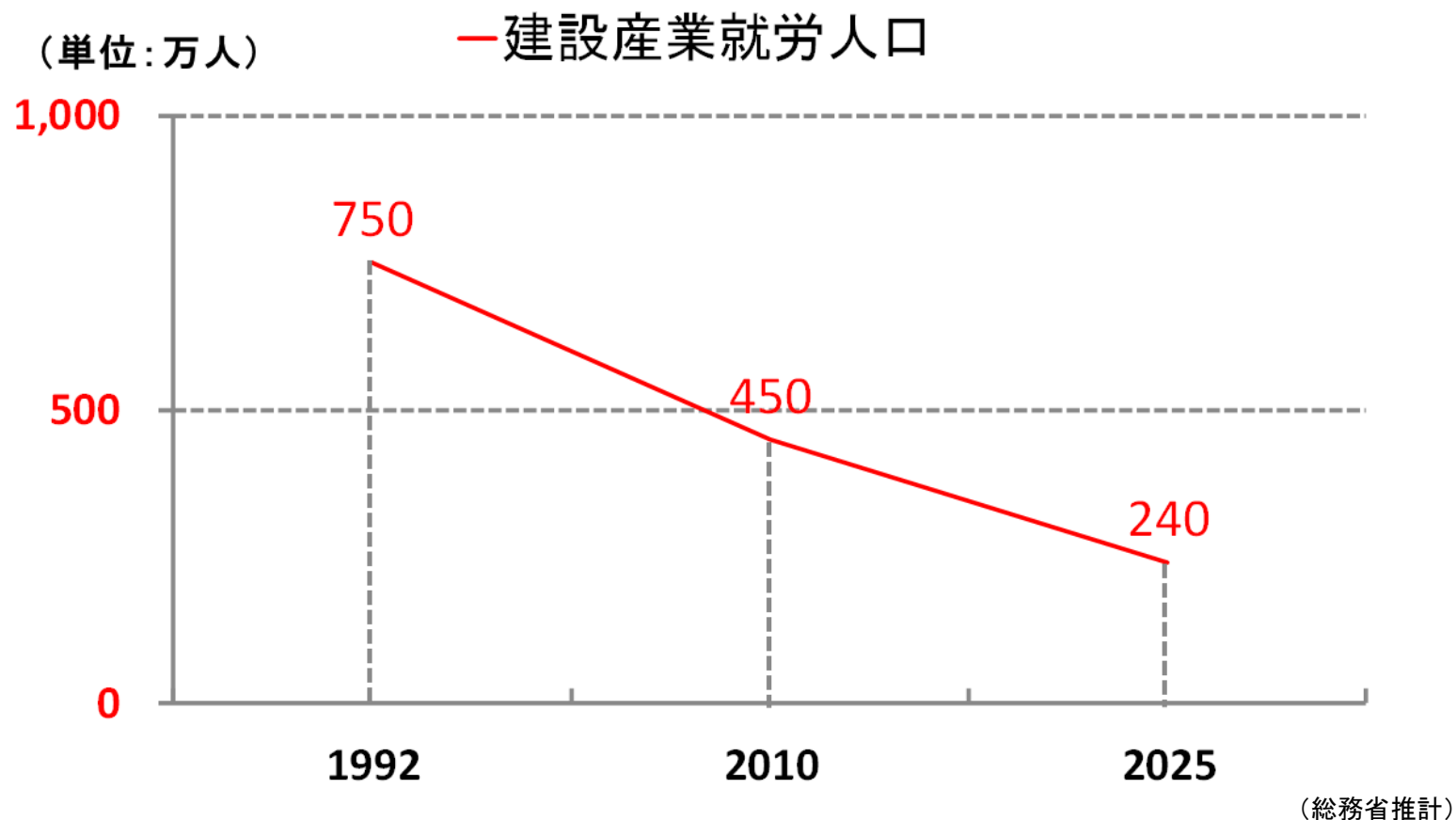
短期（継続）

- 少子高齢化と緊縮財政のため、国内建設市場の縮小と成熟化
- 熟練工の高齢化と若手入職者の減少（求人は急増）：人材不足、労務費高騰
→建設分野の就労者は、1992年の約750万人から2010年には450万人へ減少し、2025年には240万人と推定されている。
- 2020年東京オリンピックに向けた首都圏の民間建設投資の増加と大都市への集中投資による地方投資の減少
- 国土交通省のインフラ長寿命化政策（耐久目標期間100年）で、新しい材料・工法・技術・設計法の開発の必要性を国是とした。

中・長期

- 1970年代に整備された社会インフラ（橋梁、トンネル、道路等）と、民間施設（ビル・病院・マンション等）の更新時期到来：老朽化対策
- 2020年東京オリンピック後の政府建設投資・民間建設投資の不透明感
- 国債発行残高の増加：国や地方自治体の財政圧迫（公共事業の縮小傾向）
- 少子高齢化と労働人口の減少：国内市場の更なる減少
- 公共事業関連予算の減少と社会保障費の増大

●建設産業就労人口の推移



① 緊急性の高い課題への対応：

既存事業の安定成長/成長事業の拡大

- ・社会インフラの老朽化対策、効率的な維持管理・更新
- ・地震や異常気象などに対する、防災・減災対策

② 中長期的な課題への対応：

3つの成長戦略

1. 停滞している公共事業の対策

→ 民間需要の拡大とM&Aによる新規事業

2. 社会インフラ長寿命化政策の要請(耐久目標100年)

→ 省力化、省人化、工期短縮を可能にするESCONコンクリートの必要性

3. 人口減少(少子高齢化)や地方過疎化による税収の減少と社会保障費の増大

→ 海外市場への展開 × PPP(公民連携)の推進

新規事業の 創造

- 戦略的M&Aの推進
- 超高強度合成繊維補強コンクリート(ESCON)の事業拡大とマーケティング(協会活動)
- 海外事業展開とPPP(公民連携)
- 国内空港のコンセッションにアンジェロップとVINCIプロジェクト関連
- 原子炉廃炉とアンジェロップ、Nuclear Services(ESCON γ Nite)

成長事業の 拡大

- 建設コンサルタント事業による国際化(アフリカ、東南アジア、ユーラシア)
(アンジェロップ、アンジェロセック、VJEC)
- 補強・補修工事業
(エスイーリペア、ランドプラン)

既存事業の 安定成長

- 建設用資機材の製造・販売事業
(エスイー、エスイー鉄建、
中川鉄工所)
- 建築用資材の製造・販売事業
(エスイーA&K、エスイー鉄建、
中川鉄工所)

エスイーグループでは、
既存事業の安定成長/成長事業の拡大と
さらなる発展のため、3つの成長戦略に挑戦

既存事業の 安定成長

- ・ 建設用資機材の製造・販売事業
(エスイー、エスイー鉄建、
中川鉄工所)
- ・ 建築用資材の製造販売・事業
(エスイーA&K、エスイー鉄建、
中川鉄工所)

建設用資機材の製造・販売事業(エスイー、エスイー鉄建、中川鉄工所)

- ・ アンカー工法の応用分野拡大 砂防堰堤、海岸堤防、嵩上げ
- ・ 土木分野における耐震金物の受注拡大
- ・ インフラの大規模更新・補修補強事業の獲得

建築用資材の製造販売・事業(エスイーA&K、エスイー鉄建、中川鉄工所)

- ・ 首都圏を中心とした民間住宅/非住宅投資の、安定的な建設需要取込
- ・ 東北地区における復興再生需要の取込
- ・ 鉄骨・梁加工製品等の鉄骨工事(Mグレード、Hグレード)

成長事業の 拡大

- ・建設コンサルタント事業による国際化（アフリカ、東南アジア他）
（アンジェロップ（仏）、アンジェロセック（日仏合併）、VJEC（日本、ベトナム合併））

建設コンサルタント事業（アンジェロセック）

- ・ JICA技術協力プロジェクト ⇒ 相手国政府職員の能力向上
- ・ JICAプロジェクトにおいて中堅・若手技術者がプロジェクトの総括、副総括として参画
- ・ 提案能力/事業推進力の向上による、受注競争力の強化
- ・ 仏アンジェロップ社、ベトナムVJECによる、技術力向上と更なる国際化推進

補修・補強工事業（エスイーリペア、ランドプラン）

- ・ ESCONとエスイーリペアの新たな融合による独自工法の開発と提案
- ・ 営業力強化、安定顧客層の形成による、受注力の向上
- ・ 施工力の強化と施工品質の向上
- ・ 事業エリアの拡大とエンジニアの積極的採用

新規事業の創造

- ・ 戦略的M&Aの推進
- ・ 超高強度合成繊維補強コンクリート(ESCON)の事業拡大とマーケティング(協会活動)
- ・ 海外事業展開とPPP(公民連携)
- ・ 国内空港のコンセッションにアンジェロップとVINCIプロジェクト関連
- ・ 原子炉廃炉とアンジェロップ、Nuclear Services(ESCON γ Nite)

戦略的M&Aの推進

- ・ 業際分野におけるM&Aを通じた、経営基盤の強化/事業拡大/スピードアップ

超高強度合成繊維補強コンクリート(ESCON)の事業拡大とマーケティング

- ・ 製品化ならびに製品ラインナップの拡充を推進、協会員31社との共同で販売事業の拡大
- ・ ESCON協会を設立し、全国規模で会員企業を募集
- ・ ESCON協会による新分野・新応用技術の開発(土木、建築、一般分野)

海外事業展開とPPP(公民連携)

- ・ 現在展開しているベトナムへの進出日本企業との協業化、建設分野の現地化
- ・ ベトナムに加え、近隣諸国へとエリアを拡大
- ・ 宮城県東松島市 地方再生事業業務委託
- ・ 国内空港のコンセッションにアンジェロップとVINCIプロジェクト関連

●エスイーグループにおけるM&A実績

平成21年4月 朝日興業株式会社（現・エスイーA&K株式会社）の株式取得
（子会社化）

平成22年1月 株式会社キョウエイ（現・エスイーA&K株式会社）の株式取得
（子会社化）

平成24年5月 株式会社仲田建設（現・エスイーリペア株式会社）の株式取得
（子会社化）

平成26年4月 鉄建工業株式会社（現・エスイー鉄建株式会社）の株式取得
（子会社化）

平成27年4月 株式会社森田工産（現・エスイー鉄建株式会社）の株式取得
（子会社化）

平成27年12月 株式会社中川鉄工所の株式取得（子会社化）

平成28年 7月 エスイー鉄建株式会社が株式会社丸互から鉄骨事業の譲受

これからも業際分野を中心としたM&Aによる事業拡大と経営基盤強化を推進

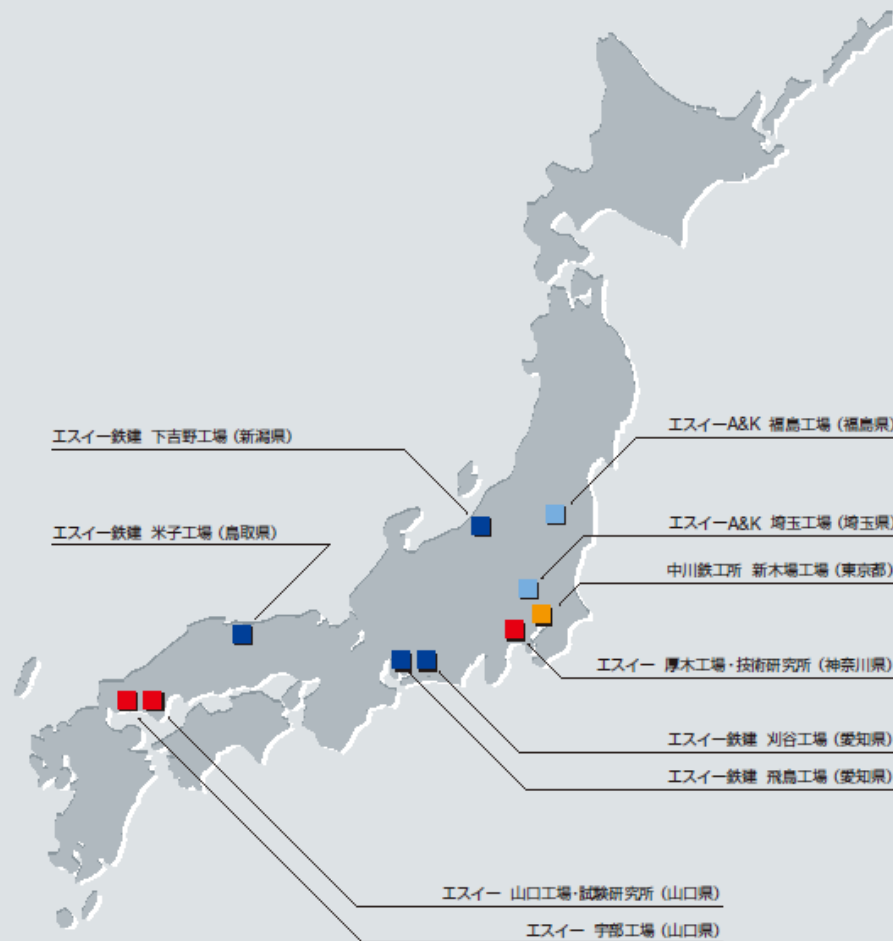
戦略的M&Aの結果

SECグループの工場配置図



2016年7月
エスイーグループ

Factory and Laboratory of SE Group



●M&Aの今後の戦略

<実績>

- ・これまで2009年～2016年 年間約1件成立
- ・買収した企業の売上は、平成28年度:エスイーA&K60億円、エスイー鉄建30億円(来期50億円)、エスイーリペア15億円(来期以降25億円目標)

<中期的な目標>

- 1) 今後、年20億円程度の事業拡大を促進
- 2) 建築関連の比率を35%から45%に引き上げる
- 3) (株)エスイーの販売力を活用できる案件を優先

<対象>

現在の4つのセグメントの範囲とし、グループ各社の規模の拡大を計る

- 1) 建設用資機材の製造・販売
- 2) 建築用資材の製造・販売
- 3) 補修・補強工事業
- 4) 建設コンサルタント

<M&A後の運用>

- ・現在のグループ各社に合併して運用する(規模のメリット、技術的シナジー、経営ガバナンスの容易さを追求)

ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

● コンクリート構造物の劣化原因

凍 害



< RC 橋脚 >

塩 害



< RC 桁 >



< PC 桁 >

道路橋の経年疲労



< RC 床版 >



● 「ESCON」とは

- ・圧縮強度、曲げ強度が一般的なコンクリートより極めて高い
- ・鋼材を使用しないため腐食せず、また高い靱性からひび割れにも強く、コンクリート系構造物の長寿命化が図れる

● 開発の背景

・労務者の人材不足、熟練工の激減

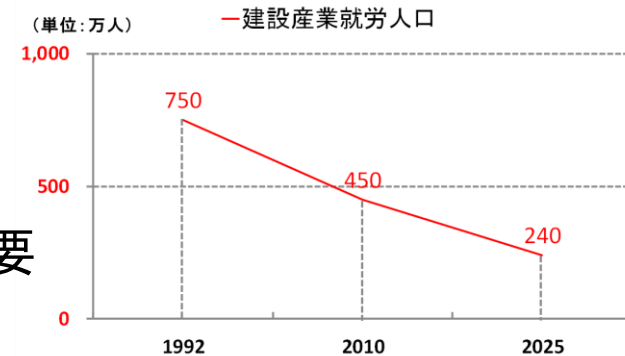
：現場作業の負担低減と製品の品質確保が必要

⇒ 省力化、省人化、工期短縮

・南海トラフや首都直下型などの発生リスク

：大規模地震に対する構造物の耐震化対策が急務

⇒ 財政状況の逼迫による耐震化対策費の低減に対応



○超高強度コンクリートの使用により構造部材の軽量化が可能

○腐食劣化しないコンクリートの使用により耐久性が向上し、
構造物の長寿命化および維持管理費・更新費の大幅な削減が可能

● ESCONの特徴

- 圧縮強度が極めて高い: 150N/mm^2 以上 (普通コンクリートの約4~5倍)
- 曲げ強度が極めて高い: 20N/mm^2 以上 (普通コンクリートの約7~10倍)
- 凍害抵抗性が極めて高い ⇒ 寒冷地の構造物への適用に有効
- 塩分浸透性が極めて低く、ほとんどゼロである
⇒ 沿岸地域、凍結防止材散布地域の構造物への適用に有効
- 透水性が極めて低く、ほとんどゼロである ⇒ 水理構造物に有効
- 極めて中性化しにくく、透気性がほとんどゼロである
⇒ 二酸化炭素濃度の高い環境にある構造物への適用に有効
- 流動性が高く、自己充填性を有する ⇒ 薄い部材や複雑な形状への適用に有効
- 耐摩耗性・耐衝撃性が高い ⇒ 滑走路や水理構造物への適用に有効

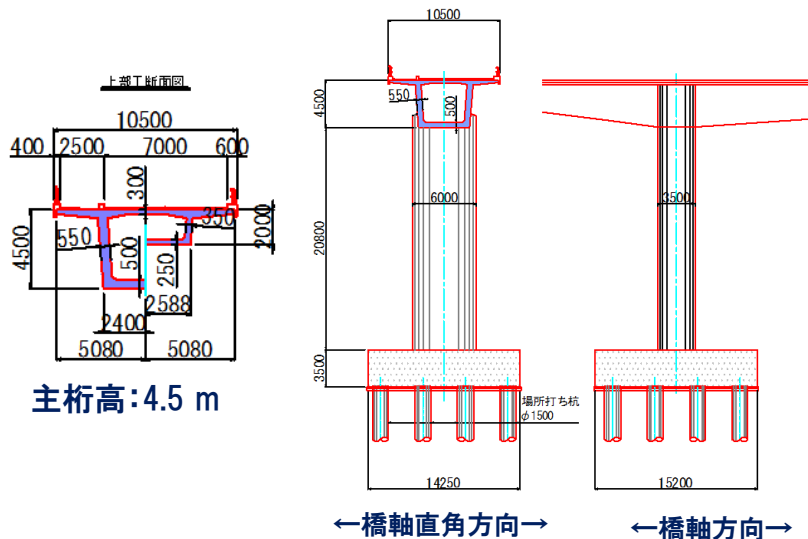
上記の特徴を活かし、『誰でも、いつでも、どこでも簡単に使える第3世代のコンクリート』の提供が可能

ESCON道路橋の試設計(従来橋との比較)

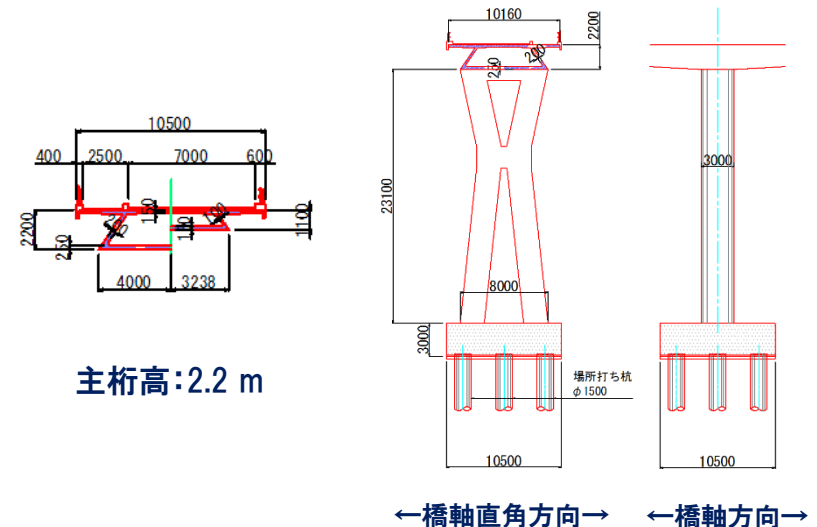
試設計橋梁の諸元

- ・橋梁形式：5径間連続ラーメン変断面箱桁橋
- ・橋 長：345.0m
- ・支 間 割：51.3m + 76.0m + 76.0m + 76.0m + 63.9m
- ・幅 員：10.5m（車道 7.0m，歩道 2.5m）

【従来の橋梁：プレストレストコンクリート(PC)箱桁】
コンクリートの設計基準強度：40 N/mm²



【ESCON仕様橋梁：内・外ケーブル併用PC箱桁】
コンクリートの設計基準強度：150 N/mm²



効果 主桁高（橋脚部）：4.5 m ⇒ 2.2 m
主桁のコンクリート体積：約50%減
上・下部工の工事費：約20%減

ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

● ESCON: 製品化ならびに製品ラインナップ拡充を推進

橋梁構造分野



ESCONスラブ
(道路橋用床版)



中・小規模
橋梁への適用



柱部材への
適用

環境防災分野

ESCON保護ブロック(耐磨耗パネル)



ESCON受圧板
(アンカー用)



ESCONパネル
(ロックボルト用受圧板)



その他分野

ESCONデッキ(覆工板)



漁港岸壁アンカー
切欠き部用蓋部材



上記の他、海洋構造物や建築分野、放射線遮断容器等、
応用分野への用途拡大を検討
→ 販売活動とマーケティング(拡販)に注力

●ESCON γ Nite[®] (ガンマ線遮蔽材料)を開発中

◇ γ Nite(ガンマナイト)とは

γ Niteは、ガンマ線を遮蔽する厚さ8cmのESCONを用いた合成コンクリート材です。ガンマ線の遮蔽材料として代表的な鉛は高い遮蔽能力を有しますが、価格が高く、使用する上では、環境汚染や鉛中毒などの深刻な健康被害に留意する必要があります。また、鉄は鉛に次いで遮蔽能力が高いですが、腐食に対する懸念があります。ESCON γ Niteは、鉄に近い遮蔽能力を有し、耐久性の高い超高強度コンクリートを使用しており、遮蔽能力、耐久性、価格等のバランスが取れた優れた遮蔽材料といえます。

◇ESCON γ Niteの応用例

ESCON γ NiteBox(放射性廃棄物保管容器)

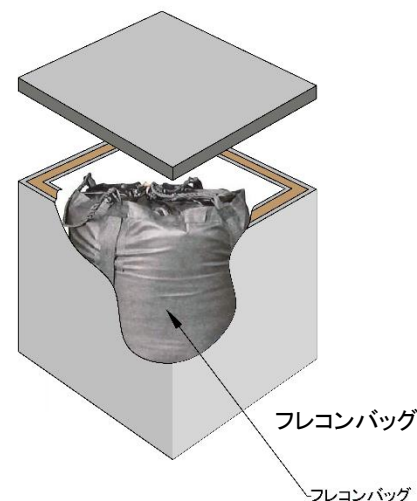
γ Niteを用いた、放射性遮蔽容器 γ NiteBOXは普通コンクリート製の容器と比べその厚みを薄くすることができます。 γ NiteBOXは、ESCONを使用しているため、水に対する耐浸透性や耐凍結融解性、耐薬品性に優れ廃棄物の長期保存に適します。

ESCON γ Niteパネル

ESCON γ Niteをパネル上にすることで医療機関のCT室の壁面の構築や更新あるいは、ガンマ線を用いた非破壊検査の被爆防止用パネルへの応用が考えられます。

放射能汚染物質の中間貯蔵箱

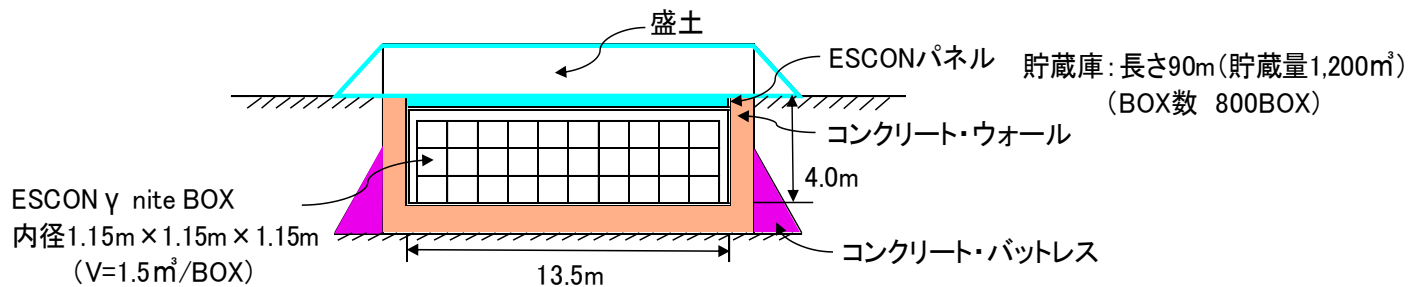
ESCON γ Nite BOX



～ESCON γ Nite BOX の試供品～



～ESCON γ Nite BOXによる放射性廃棄物の貯蔵イメージ図～



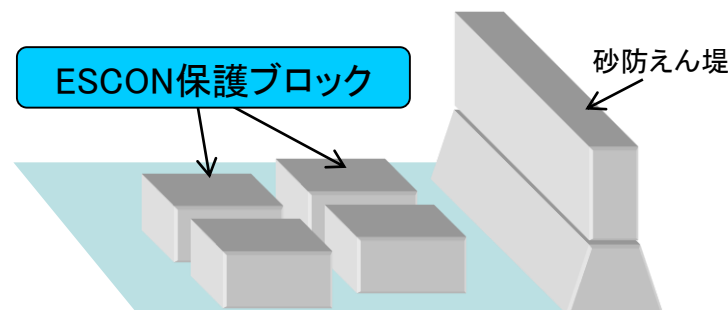
ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

● 試験施工の実施: ESCON保護ブロックを砂防えん堤に設置 定期的に性能計測



砂防えん堤(試験施工現場)

国交省管内の砂防えん堤護床工にて
現場実証試験を実施(期間:5年)
現在実施中。



2年目の経過観察結果、ESCON保護ブロック
は、従来工法に比べて平均摩擦量が約30%低
減できることを確認。

**試験データを蓄積し、
早期の製品事業拡大および技術的な認証取得を推進**

ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

●採用実績事例

ESCONパネル(ロックボルト用受圧板)



◇石川県金沢市(兼六園法面)
へ70基納入

◇NETIS登録No.QS-160021-A



兼六園法面納入状況



ESCONカバープレート(漁港用)

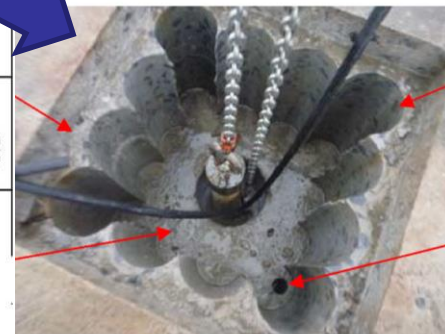
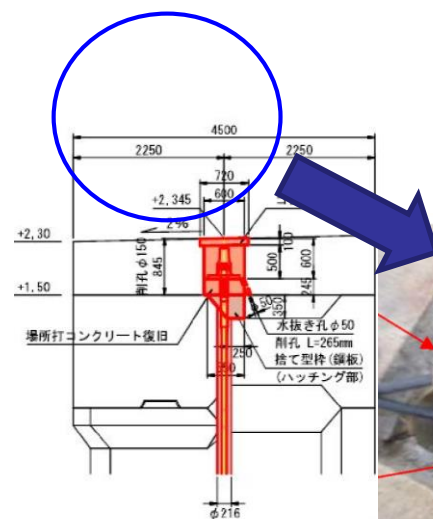


◇強度試験実施済み
(100kN対応)

◇茨城県波崎漁港

◇2014年度、15年度
2年連続納入実績

◇合計97基納入



ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

●採用実績事例

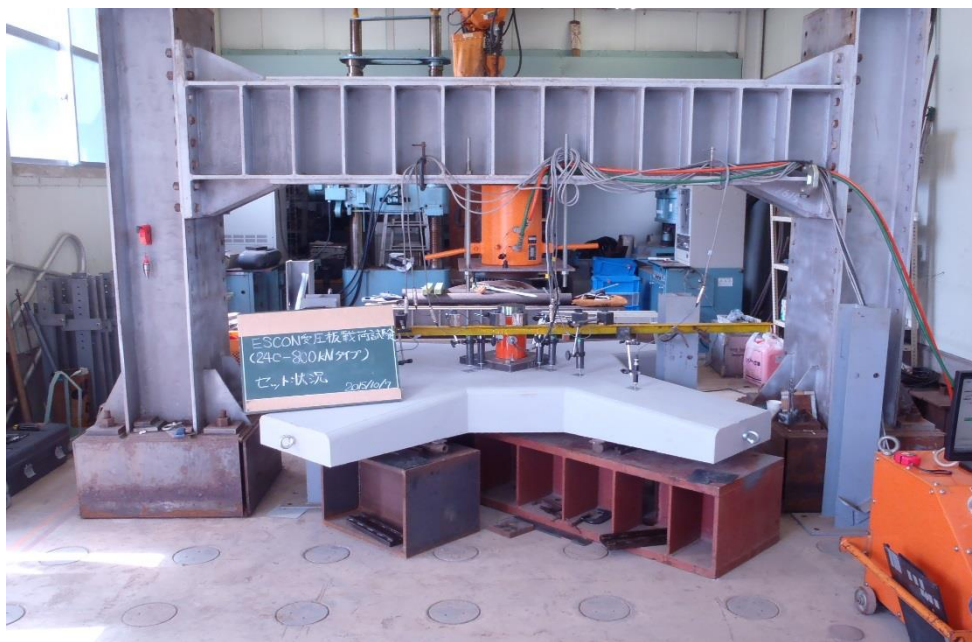
ESCON受圧板(グラウンドアンカー用)

【特徴】

従来のコンクリート製受圧板に対して1/2～1/3程度軽量となるアンカー用受圧板。
鋼製受圧板の使用が控えられている地域・発注者をメインターゲットとします。

◆ 土木研究センターでの載荷試験済

◆ 埼玉県秩父市 89基納入 (施工現場)



主なESCONターゲット市場（初期5～6年）



株式会社 エスイー

	種別	延長事業費	年間	ESCON材料	備考
NEXCO 高速道路更新	床版大規模更新	224km 16,429億円	200億円/年 100億円(材料)	40億円	市場の40%
首都高速道路 阪神高速道路	更新、修繕	6,300億円 3,700億円			後年市場化
中堅ゼネコン	トンネル、セグメント 建物、道路構造物				後年市場化
PC業界	ポステン(現場) プレテン(工場)	1,600億円/年 700億円/年	市場の10%	30億円	
プレキャスト 二次製品	市場規模 (代表2社)	600億円	市場の10%	25億円	
自社製品	プレキャスト、セグメント(受圧板、覆工板、鋼橋用床版他)			5億円	
合計				100億円	ESCON 50,000m ³ 相当

※首都高速道路、阪神高速道路は後年引き続いて市場開拓する。

●ESCON協会発足

平成28年7月14日、ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート)の普及を目指す「ESCON協会」が発足いたしました。ゼネコンやPC建設業者及びコンクリート製品製造会社などが集まり、設立総会が開催されました。会長には弊社代表取締役会長森元峯夫が就任いたしました。今後は正会員27社、賛助会員4社が、技術情報の収集や適用分野の開発を通じて、ESCONの応用分野と量的拡大に努めてまいります。



●ESCONパネル NETIS登録完了



平成28年9月、ESCONパネルのNETIS登録が完了いたしました。(登録No. QS-160021-A)
ESCONパネルは、超高強度合成繊維補強コンクリートと炭素繊維グリットを用いることで、外部からの劣化因子の侵入を防ぎ、長期間にわたり高品質が維持されるため耐久性の向上が期待できます。また、鉄筋を使用しないため、塩害地域など腐食環境が厳しい条件下でも安心して使用できます。

●落橋防止装置/F-TD

落橋防止装置/F-TDは、物理的な安心感と心理的な安心感の両立に成功していることが評価されグッドデザイン賞を受賞いたしました。



～グッドデザイン賞 審査員のコメントより～
＜受賞理由＞

以前より気になっていた落橋防止装置である。

20年で27万基あまりが設置されており、熊本地震ではF-TDが設置されていた橋の落橋を防いだという。

落橋防止装置はどれも同等の耐震性能を有するが、地震エネルギーを吸収するゴム部材とPCケーブルで構成されたシンプルな形状の当落橋防止装置は、橋の美観を損ねることなく、視覚的な安心感も与えている。

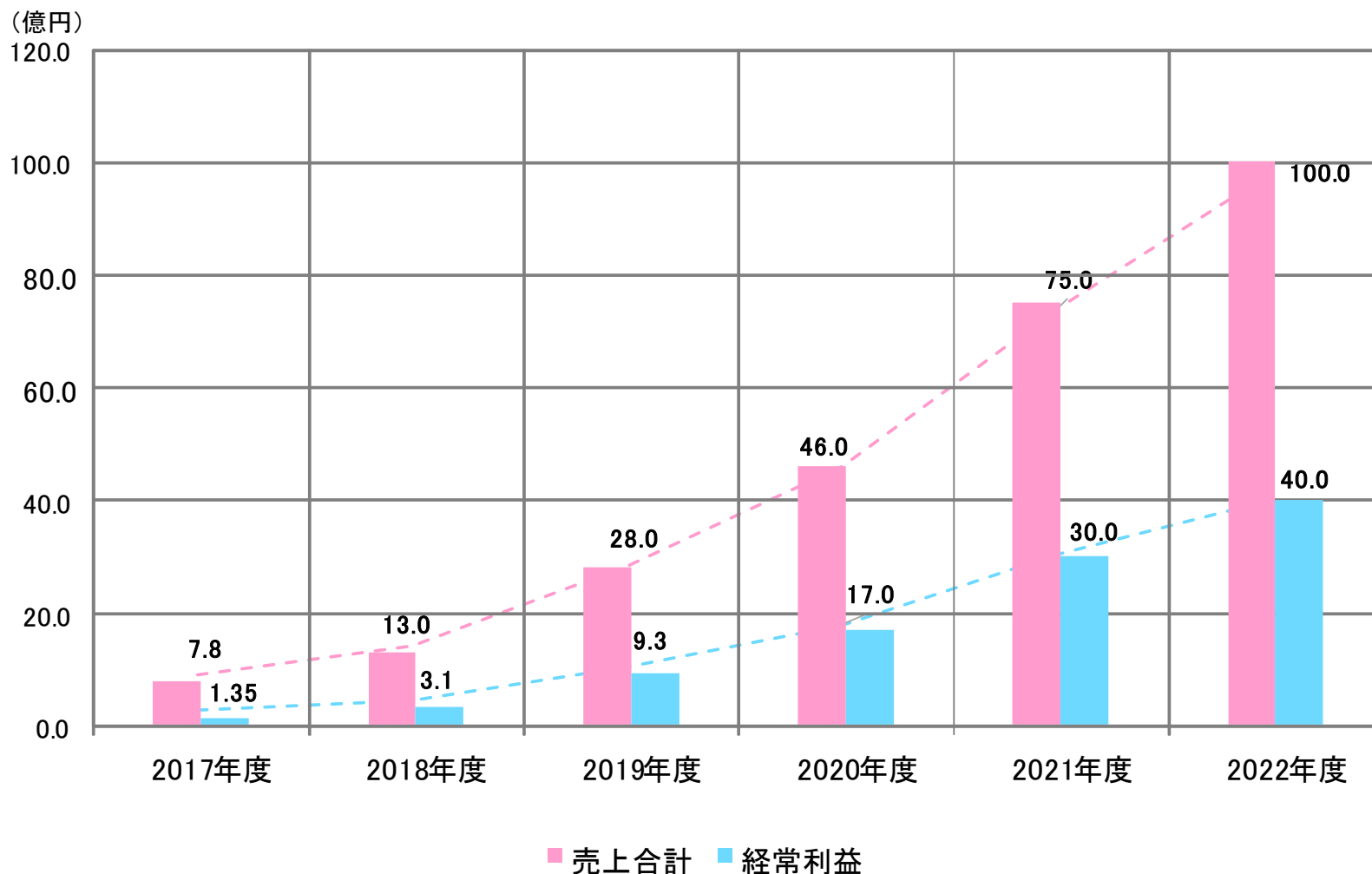
物理的な安心感と心理的な安心感の両立に成功していることに当デザインの価値がある。



ESCON事業計画(新事業計画に採用)



株式会社 エスイー

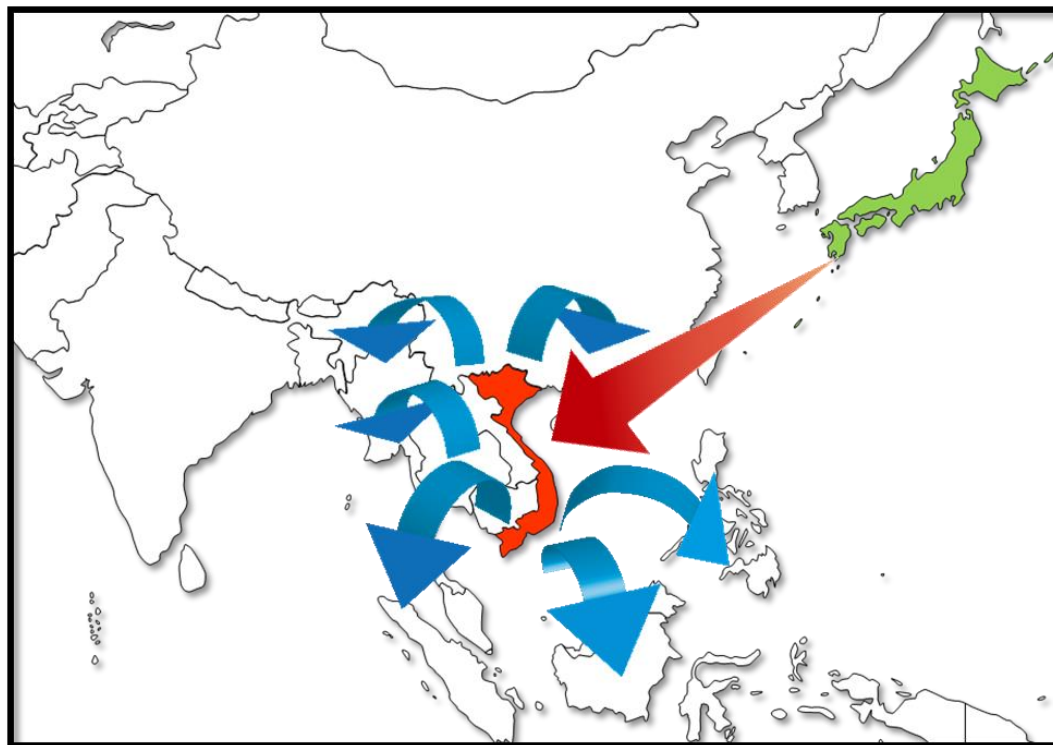


●海外事業展開(ベトナム)への積極的な取り組み

- | | |
|-------|--|
| 2007年 | ベトナムでの事業展開を目的として、
ベトナム国立建設大学(NUCE)附属機関と
(有)日越建設コンサルタント(VJEC)設立 |
| 2010年 | ベトナムにおける大規模国策事業である、
ハノイーハイフォン間高速道路(全長105キロ)施工監理業務を受注 |
| 2012年 | ハイフォンーハロン間バックダン橋プロジェクトを
PPP(公民連携)にてベトナム・クアンニン省に提案、
その事業化を推進 |
| 2014年 | JICA(独立行政法人国際協力機構)より、
「ベトナム国 技術普及案件化調査案件」を受注 |
| 2015年 | バックダン橋プロジェクト投資許可受領。事業開始 |
| 2016年 | JICAより「ベトナム国道路法対策技術の普及実証事業
(グラウンドアンカー工法)」に採択 |

引き続き、ベトナム市場の開発、
新規プロジェクト創出と具体化を推進

●ベトナムから近隣諸国への拡大



当社製品の啓蒙活動

技術移転/人材交流

将来的な生産/販売拠点設置

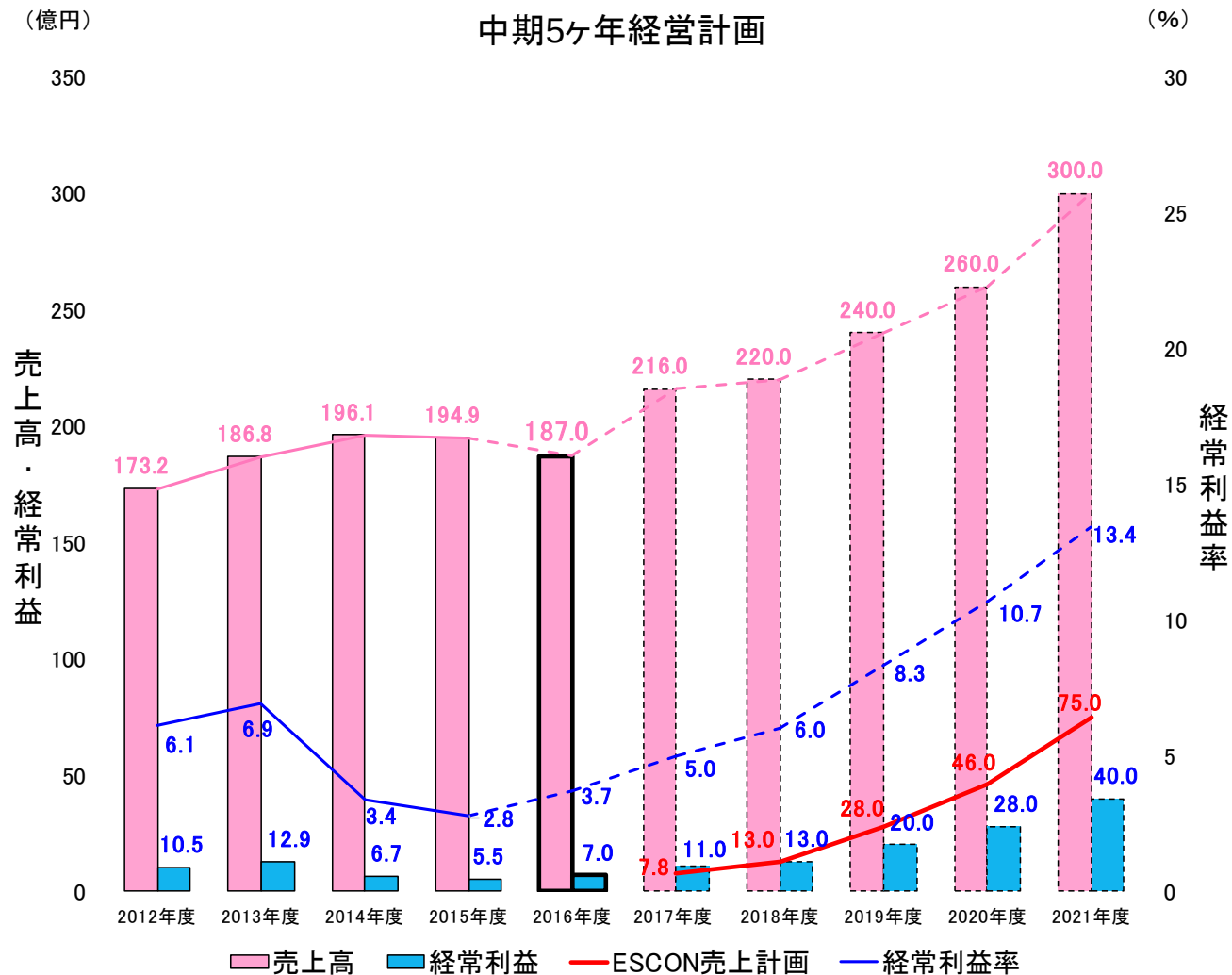
現地企業とのタイアップ



事業可能性を模索

ベトナムでの事業展開に加え、中・長期戦略として、
その他東南アジア地域等における事業展開を創出

エスイーグループ売上／利益目標



将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。したがって、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

Globality Engineering Maker

 株式会社 エスイー